



K中通信

学校だより 13号
令和3年3月15日
横浜市立軽井沢中学校

【学校教育目標】『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます (知・徳・公)
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます (体・開)

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

去る3月11日(木)、令和2年度横浜市立軽井沢中学校第59回卒業証書授与式が挙行されました。みなさまのご協力によりつつがなく実施できましたことを御礼申し上げます。

式中の「学校長のことば」「PTA会長 お祝いのことば」「生徒代表 門出のことば」をご紹介します、第13号のK中通信とします。1年間、お世話になりました。

○学校長のことば

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

式に臨むみなさんの落ち着いた態度を拝見し、たいへん感慨深く思うとともに、改めてみなさんを支え、励ましていただいた多くの方々に、教職員を代表して感謝を申し上げます。

みなさんが手にしている卒業証書は、義務教育課程の修了を表しています。保護者がみなさんに教育を受けさせる義務は今日をもって終わり、これからは一人ひとりが自分だけの「学び」に取り組むことになります。

ここで「学ぶ」ということについて考えてみましょう。

入学当時のみなさんは、今日と明日が続くことは当たり前すぎて、意識することもなかったことでしょう。

昨年からの感染症の流行により社会は一変しました。みなさんが足跡を残した東北での修学旅行は、「当たり前の明日はない」という事実をみなさんに突きつけました。むしろ、昨日と今日は辛くもつながっているのです。みなさんが学習したSDGsは、学習を進めていけばいくほど現代社会の課題が明らかになりました。正直「持続可能な社会」は、私たちがはるかかなたにある黄金郷のように思えます。

けれども、みなさんは学びの中で、自分や他人の健康に配慮する行動を身につけました。生命の尊さを再認識し、地震や台風などの自然災害に対する感度を高めました。SDGsの発表会では自分の身の回りにある紙の多さに気が付き、紙の削減に取り組もうという提案がされました。海洋汚染の現状を示すために、実際に海で拾ったマイクロチップを1年生に示し、生活を変えようとする提案もありました。このように、硬直化した現実を具体的な行動で変えていこうとする意欲がみなさんの発表の中で見られたことは、私にとって未来への希望となりました。

きっと「学ぶ」ことは変わることであり、変わるために人は「学ぶ」のでしょう。みなさんが変化する社会に対峙するとき、最も信頼できるパートナーが「学ぶ」ことなのです。

さて、見方を少し変えてみます。高度に情報化された現代社会では、端末の操作だけで膨大な情報が手に入ります。それらと知識は一見似ていますが、実は異なるものです。情報を吟味し、根拠をもって取捨選択し、理解して自分の中に取り込んだとき、はじめて情報は知識となり、みなさんが課題を解決するときの手助けとなります。

現在、日本の人口は約1億2000万人、そのうち10代の人口は約1100万人で9%を占めます。最も人口が多い40代は約1800万人、人口に占める割合は15%ですから、みなさんの世代の一人ひとりの責任は、現在の大人より重くなることでしょう。そのような厳しい現実直面するとき、みなさんを助けるものは学び続ける意欲であり、学び続けて得た知識です。どうぞ、変化したい自分の姿を思い浮かべ、時には自問自答しながら、学ぶことを止めないでください。最後になりますが、みなさんの輝かしい前途をお祈りし、学校長の祝辞といたします。

ご卒業、おめでとうございます。

令和3年3月11日 横浜市立軽井沢中学校 校長 星野 久美子